

Neumann

theme for zebra²

USER GUIDE



for version 1.4 (2020 5月)

インストール	3
基本構造	5
シンセシス	6
シーケンサー	7
XYパッド	8
モッドマトリックス	10
モジュールの構造.....	11
ZebraHZについて.....	15
アップデート	18

インストール

Just install it to Zebra theme folder and it'll show up on ZebraHZ & Zebralette as well.

macOS

1. "Macintosh HD/Library/Application Support/u-he/Themes" のフォルダにアクセスし、テーマフォルダをドロップします(ZebraもZebraHZも共通です)。
2. Zebra(またはZebraHZ)を開きます。
3. 右上の歯車アイコンをクリックし、環境設定を開きます。
4. 「Default Skin」の項目で、“Neumann”を選択します。

Windows

1. Zebraフォルダを見つけます。通常であれば"C:\VSTPlugins\u-he\Zebra.data"にあります。
2. "Support:Themes"に移動し、テーマフォルダをドロップします。もしそのようなフォルダがない場合には、自分で新規作成します。
3. Zebraを開きます。
4. 右上の歯車アイコンをクリックし、環境設定を開きます。
5. 「Default Skin」の項目で、“Massive Modular”を選択します。

※テーマをたくさんインストールすると、GUI読み込みが遅くなる可能性があります。



カスタムフォントのインストール

Neumannは**カスタムフォント**を使用しており、これもまたインストールが必要です。(これをインストールしない場合は、初期フォントが代わりに使用されます。)

macOS

"Macintosh HD/Library/Application Support/u-he/Zebra2/Fonts"フォルダにいき、"Inter"という名前のフォントフォルダをドロップします。

△ ZebraHZを使用する場合 "/Zebra**HZ**/Fonts"のフォルダにも同様にドロップが必要です。

Windows

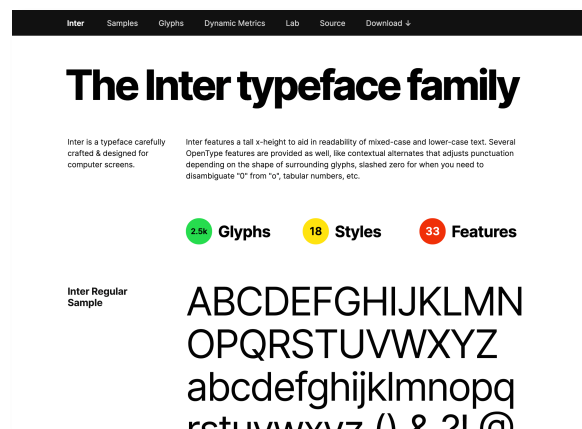
1. Zebraフォルダを見つけます。"C:\VSTPlugins\u-he:Zebra2.data"にあるはずです。

2."Data:Fonts"フォルダに移動し、"Inter"という名前のフォントフォルダをドロップします。

△ ZebraHZを使用する場合 "Zebra**HZ**.data:Fonts" のフォルダにも同様にドロップが必要です。

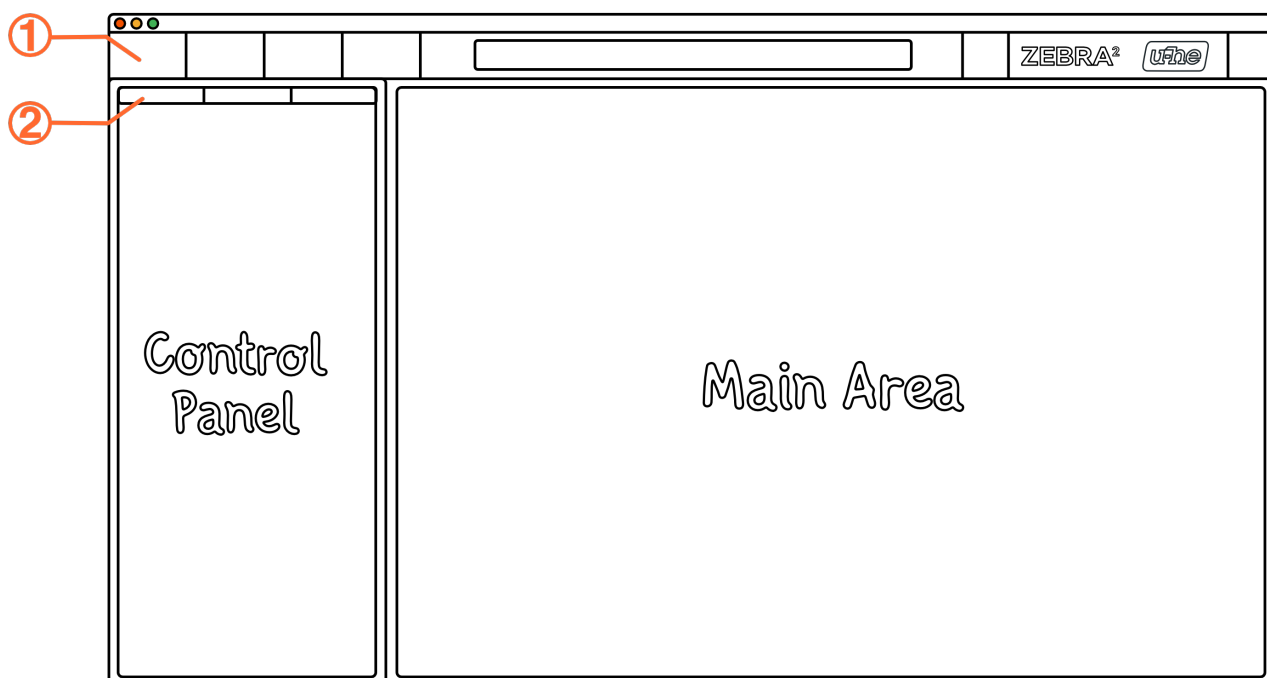
Inter はOFLフォントで、コンピューター画面のために慎重に作成されています。

<https://rsms.me/inter/>



基本構造

Neumannはオリジナルとは異なったデザインを採用しています。下部パネルは解体され、代わりに「コントロールパネル」と称する3タブ構成のパネルが左側にあります。



① メインタブセレクト

メインエリアの変更はここから行います(シンセシス/シーケンサー/パフォーム/プリセット)。

② サブタブセレクト

コントロールパネル内の3つのタブを選択できます(グリッド/マトリックス/ミニXYパッド)。

シンセシス

Neumannは2列式のデザインを採用しており、中央の「スイッチャー・バー」で、モジュレータ・ラックとエフェクタ・ラックを切り替えます。



ミニコン

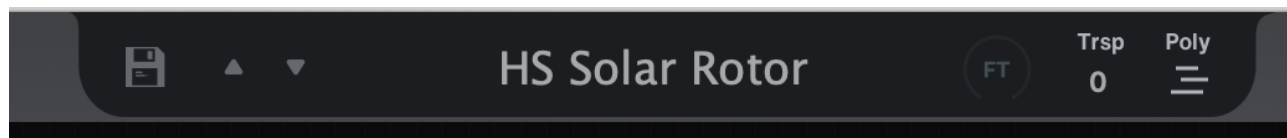
スイッチャーバーは切り替えボタンであると同時に、簡易的なモジュールリストの役目も果たします。「ミニコン」と呼ばれるミニサイズのアイコンが一行にリストアップされていて、隠れている方のラックに何がインサートされているかが、簡単に確認できます。

	Delay
	Rev/NuRev
	EQ
	Compressor
	ModFX
	VCF
	XMF
	SideBand
	Distortion
	Shaper
	Mix

	Delay
	LFO
	LFOG
	MSEG
	MMap
	MMix

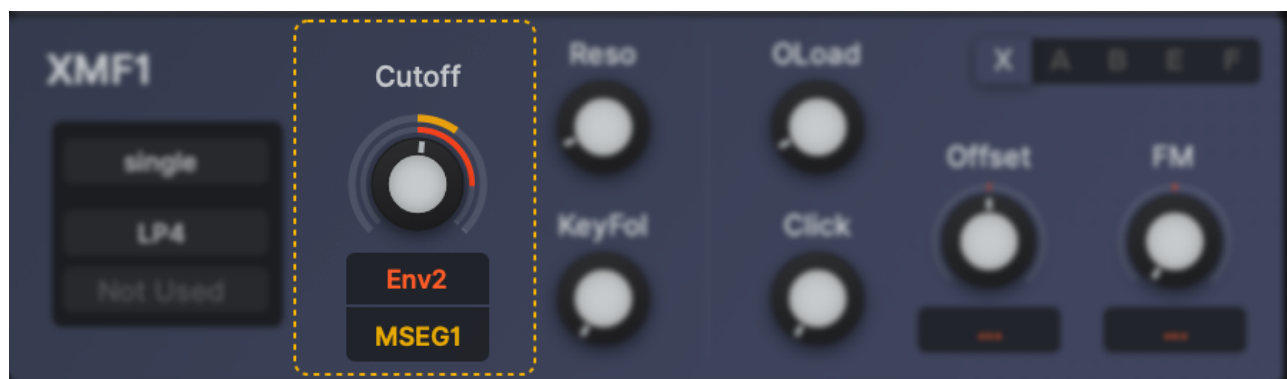
Voice/Transpose設定

Transpose/FineTune/Voicemodeは**ヘッダー**に格納されました。Finetuneは変更なしの時にはグレーアウトしているので、+0.5でも変化があればすぐにわかります!



新モジュレーションシステム

Neumannは”マッシブ・モジュラーシステム”と呼ばれる新UIを有しています。

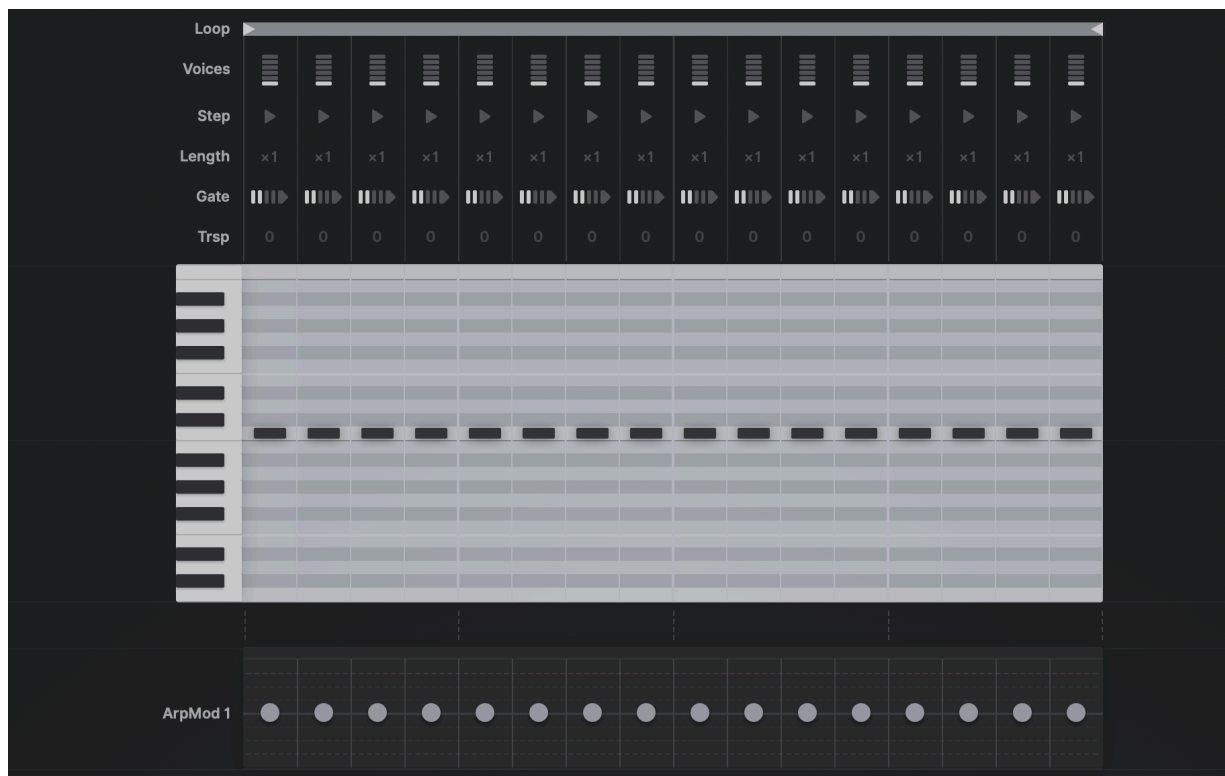


ノブの下に「モッド・ボックス」があり、以下のように操作します。

	左クリック	(ソース未設定時に)ソースメニューを開きます。
	ドラッグ	モッドデプスを調整します。
	右クリック	モッドソースを再設定します。
	リングは?	モッドデプスを 表示 します。これを直接ドラッグはしません!

シーケンサー

Neumannは、ピアノロール搭載のフルスクリーンシーケンサーを有しています。



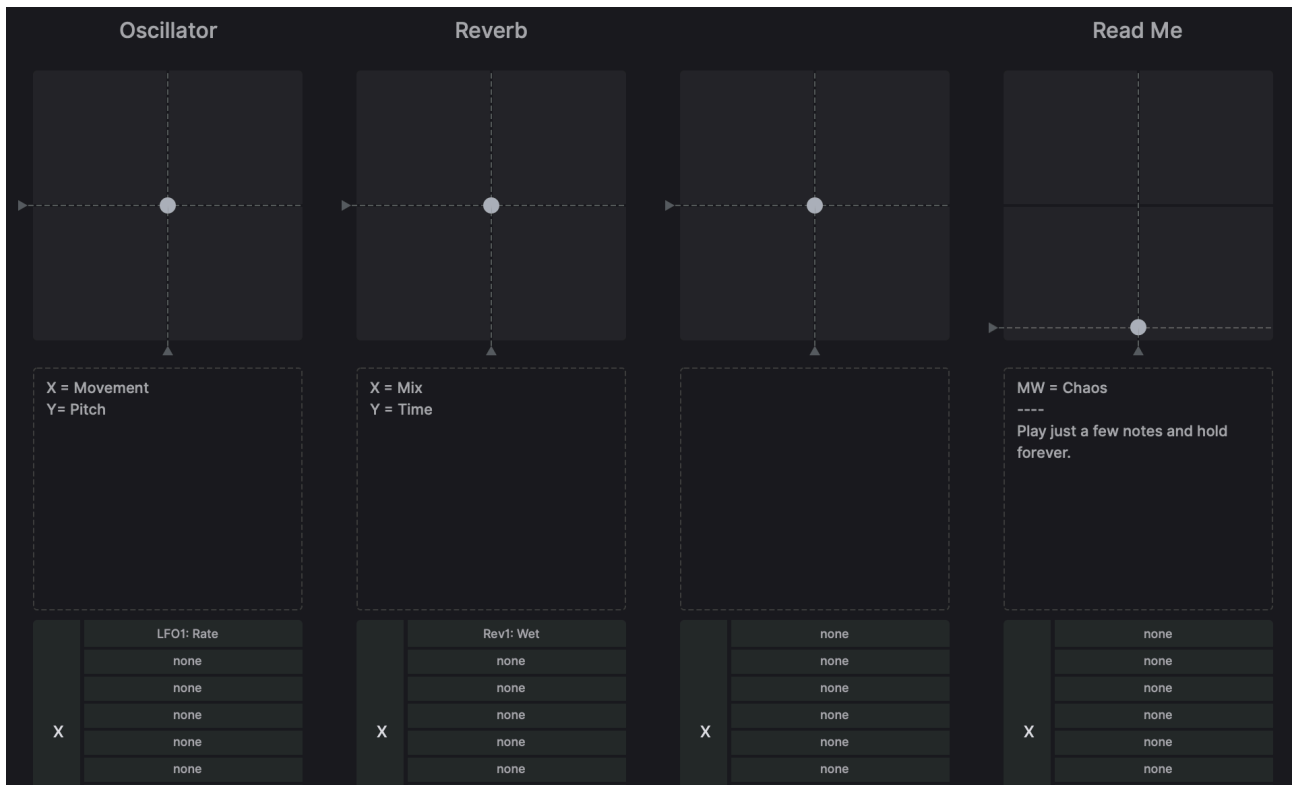
Lengthのパラメータは、クリックではなく**縦ドラッグ**で変更する点に注意してください。

*トランスポーズ-12問題

GUIスクリプト言語の制約から、トランスポーズ -12をクリックで一発指定することができません。どこかをクリックしたうえ、ドラッグによって-12まで設定してください。

XYパッド

NeumannはフルスクリーンXYパフォーマーと、コンパクトXYセクションの2つを有しています。フルスクリーンXYは、単なる通常のXYパッド画面です。



一方でコンパクトXYは、パラメータのアサインと深度調整に使います。



オリジナルスキンと同様に、ドラッグ&ドロップでターゲットの設定が可能です。

モッドマトリックス

モッドマトリックスは、アイコンをベースにしてデザインされています。アイコンの意味を覚えるまでが大変ですが、慣れれば文字よりもスピーディに把握ができます。



ソースやデプスの設定法は、通常のもジュールーションと同じです。モッドソースの変更には**右クリック**を要するという点に注意してください。

モッドソースは「ミニコン」で表示されます。

...	None
	Modwheel
	Pitchwheel
	Ctrl A
	Ctrl B
	Gate
	Keyfollow
	Keyfollow2
	Velocity
	Aftertouch

	ArpMod1
	ArpMod2
	ENV
	MSEG
	MMap
	LFO
	LFOG
	MMix

モジュールの構造

いくつかのモジュールはあまりにも抜本的に改革されたため、いくらか説明が必要でしょう。

OSC

オリジナルと違い、NeumannのOSCモジュールには**タブがありません**。基本的なパラメータは全て1タブに集約され、それ以外は全てフルスクリーンエディタに格納されています。



① プリセットセレクト

プリセット画面を開きます。

② 波形設定

クリックするとフルスクリーンエディタに入ります。ユニゾン設定(x1,x2...)は縦ドラッグで変更することに注意してください。

③ フラットデザインノブ

灰色のリングが主パラメータで、赤のリングがモッド深度です。

④ 非使用要素は非表示

SyncとSFXは非使用の場合、自動的に非表示となります。

⑤ オクターブチューナー

この小さな上下矢印をドラッグすると、オクターブ単位でチューンの調整ができます。

⑥ WIDTHノブ

SyncやSFXと同様に、Widthノブは”Single”モードでは効果を発揮しないため、非表示になります。

リバーブ



① DIFFUSER

Diffuseのパラメータは、Modのような扱いで赤リングにて表示され、ボックスをドラッグすることでその値を調整します。

② スペクトラル・ディスプレイ

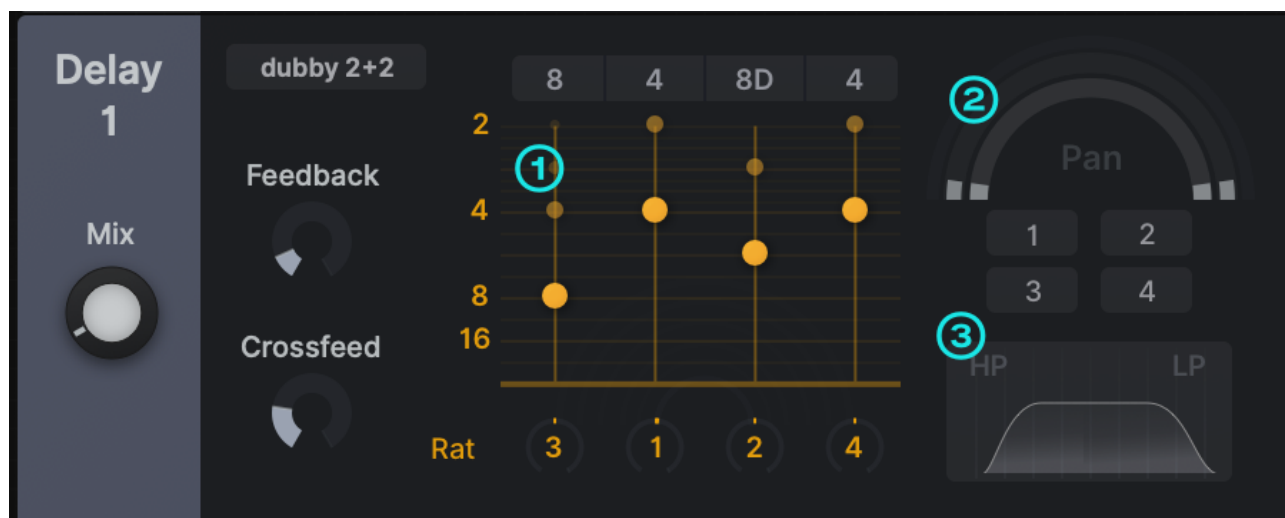
Range, Feed & Dampの3パラメータを合算した結果をイメージとして表示します。PreDelay, Diffuse, Mod, Speedはここには反映されません。

(※NuRevにおいては、**Decay, Size & Damp**の3つが反映されます。)

このディスプレイは、**XY pad**としても機能します。RangeとFeedをまとめてコントロールすることができます。

ディレイ

ディレイ・モジュールは非常にユニークな視覚的デザインを備えています。



① 垂直式タイムライン

4つの縦レーンは、「タイムライン」です。トップのディレイ時間を表現していて、下から上に行くにつれ遠くなります。

代表的な数値(2/4D/4/8D/8/16/32)については、**該当する位置をクリックすることで即座に指定ができます**。また、同じ箇所をダブルクリックすると、設定が「1sec」に切り替わります。

「8T」など他の数値を指定するには、単に上部のメニューを開いてください。

② ステレオパンナー

パンニングは二重のリングで表現され、内側がタップ1&2、外側が3&4です。虹のような半円の下にある**数字ボックスをドラッグ**することで、各タップのパンを調整します。

③ LP/HPフィルター

LP/HPは結合されてひとつのグラフとして表されます。**左側**を横ドラッグすることでHPを、**右側**ならLPを調整することができます。

エンヴェロープ



①ADSRカーブ

ADSRを総合したカーブイメージを表示します。あくまで簡易的なものであり、F/R, Init, Sust2, slopはここには反映されません。

②V-SLOPEエディタ

v-slopeモード時に限り、このカーブを縦ドラッグによって変更できます。quadricかlinearの時には、単におおよそのスロープを表示するだけです。

③ドロワートグル

下部のドロワーを開閉するスイッチです。

ZebraHZ

NeumannはZebraHZに対応しています。(1)Divaモジュール、(2)MSEG5-8、(3)モッドマトリックス13-24、(4)AmpCompのそれぞれが、オリジナルと異なる形で組み込まれています。

AmpComp & Mod Matrix 13-24

HZにおいては、「コントロールパネル」のタブが3つから5つに増えています。

AC : AmpCompセクション

MM2 : Mod Matrix 13-24

AmpCompは、クラシックなコンソール風の縦長デザインになり、各レーンとの対応関係を示します。



Diva モジュール & MSEG5-8

D-VCFとD-HPFは、メインラックに格納されています!!(やったね!!)

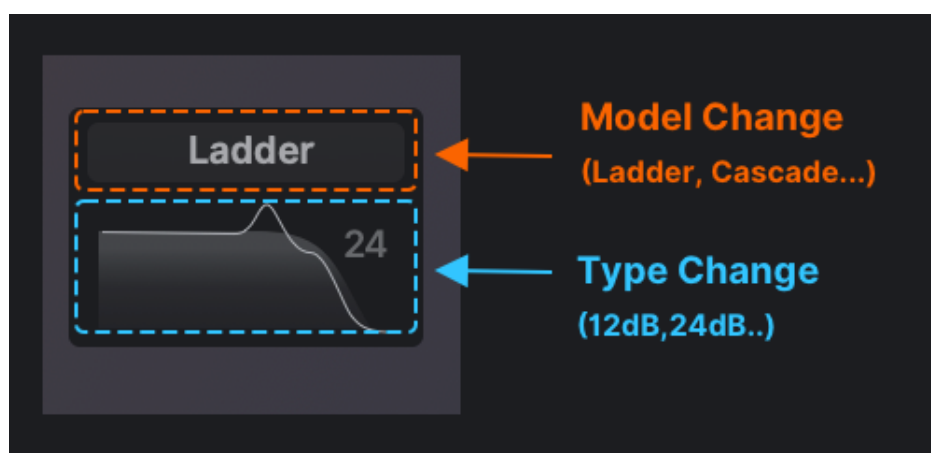


いずれかのDivaモジュールがインサートされると、自動的に**Divaオプション**パネルもその上に追加されます。

“モデル”変更と”タイプ”変更

Diveフィルターにおいては、左側のディスプレイがVCFとは微妙に違った動作をすることに注意してください。

上部のテキストエリアは、フィルターモデルの変更に携わります。対して下部のカーブが描かれた部分は、そのモデル内部のタイプ変更(LadderとCascadeでは12/24dBのスイッチ, BiteではRev1/2, Multimodeではフィルターのモード)のメニューという風に分かれています。



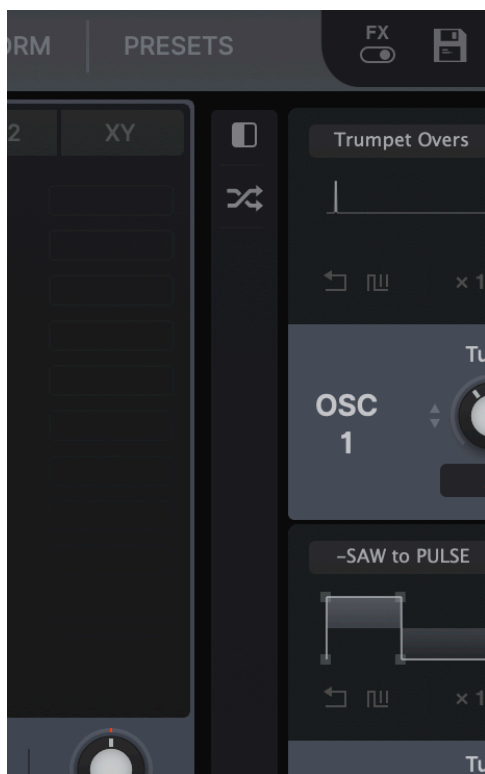
MSEG5-8については、MSEG1-4と同様に、モジュレータ・ラックに表示されます。

第2ラックの必要性

HZにおいては、メインラックについてもオモテウラを切り替える「スイッチャーバー」があります。つまり、モジュールが1ラックに収まりきっていないのです。

現行のU-heのGUIシステムでは、1つのラックには32個までしかモジュールを格納できません。Dist, FoldそしてComb3-4が追加されたことで、もはやラックは限界です(次のメジャーアップデートで改善が期待されます...)

しかしHZの肝であるD-VCFとD-HPFはぜひメインラックに格納したい。そこで、それよりも使用頻度で劣るであろうモジュールを、新しく用意した「**第2ラック**」へ移動する決断をしました。そして、Mix,SB,Shapeの3つがこの第2ラックに収納されます。



システムはMod/FXのスイッチャーと全く同じです。もし Mix,SB,Shapeのいずれかを追加すると、「ミニコン」がスイッチャーバー上に現れ、モジュールがちゃんと追加されたことが認識できます。

「ミニコン」のおかげで、プリセットロードの際にも、“裏側”のラックにモジュールがインサートされていることを見逃さず確認できます。

ダウンロードとアップデート

製品を再ダウンロードしたり、アップデートしたりは、ウェブサイトから可能です。
アカウントページはこちらのURLです：<https://plugmon.jp/my-account/>

メールアドレスとパスワードを入力してログインします。もしアカウントを作っていない場合は、作成する必要があります。その際には、購入のときに使用したメールアドレスを使用してください。そうすることによって、過去の購入履歴との紐付けがなされます。

ログイン後は、「ダウンロード」のタブに移動します。そこで、購入した製品を再ダウンロードすることができます。

製品	ダウンロード
Massive Modular	Massive Modular Themes v2.4
Massive Modular	Themes for SD Displays v2.3.2
Massive Modular	Quick EDM Soundset
Massive Modular	Quick Electro Soundset
Pocket Modular	Pokemod Crystal
Pocket Modular	Pokemod 1st Gen

*何か問題が発生しましたら、[コンタクトページ](#)からご連絡ください。